

女子プロゴルフ改革 私の挑戦

日本女子プロゴルフ協会会長
小林 浩美



- * 4日間大会を半分に
- * 試合会場の練習場を基準化
- * 試合に臨むリズムの作り方
- * 海外の成績も加味するポイント制へ
- * 下部ツアーが大変身
- * 渋野選手もステップアップから
- * 赤字からの出発
- * 成文法もなく曖昧だった放映権
- * インターネット時代に漕ぎ出す
- * 利益を出して選手に投資

山縣 それでは開会いたします。（拍手）

皆さん新聞でスポーツ欄をご覧になると、ゴルフの記事が出ている。この頃は男子プロの記事より女子プロのゴルフの記事のほうが大きな扱いになっていることがままあります。日本の女子プロの選手がアメリカで複数活躍されることも当たり前になってきております。ただ、これは一人の有名な選手が出たから女子プロが隆盛を極めているのではなく、かなり緻密な戦略と戦術があつて、これを長期にわたって組み立てて改革してきた結果が今出ているというこトです。それを主導されてきたのが小林会長で、今日は小林会長をお招きしたのは、経済倶楽部としてそこに主眼があります。

会長は女子プロの経営の話は実は対外的には

されていないのですけれども、今日はそちらに焦点を絞ってお話させていただきます。もう会長7期目に入っていて、13年やっていらして、いわば辣腕社長さんみたいな立場だと思ふんです。経営面のお話を中心に、どのように女子プロの運営を改革して、どのような考え方でここまで歩んできて、それからどこまで目指すのかということをお話したいだきたいと思ひ、お願いして来ていただきました。

実は『週刊東洋経済』に「ゴルフさんまい」というコラムがあります。もう23年やっているんですけども、そこにずっと小林さんにご執筆いただいています、このコラムに15年も書いていただいております。

『週刊東洋経済』の最新号では12月9日号に